

カーボンフットプリントの 算定と手続きの実務

カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム事務局
伊藤 聖子

2013年2月6日(水)
カーボンマーケットEXPO併催セミナー
「カーボンフットプリントからオフセットへ」

CFP宣言公開までの作業の流れ



必要経費を把握する



検証費用

初回のみ

CFP 検証料	105,000 円/製品	ただし、同一製品群で、複数製品を同時検証の場合は、 5 製品までは 52,500 円/製品 6 製品以上 42,000 円/製品	CFP 検証員検証作業費
部品点数が多いなどの理由により、工数が著しく多量である場合は、別途単価設定を行う場合があります。			



登録公開料

年間

企業単位での CFP 製品売上額	登録・公開料(円)	
	区分	単価
0 円(販売を目的としないもの)	一律	10,500
1,000 万円未満	一律	21,000
1,000 万円以上 5,000 万円未満	一律	31,500
5,000 万円以上 1 億円未満	一律	63,000
1 億円以上 5 億円未満	一律	136,500
5 億円以上 10 億円未満	一律	273,000
10 億円以上 100 億円未満	中小企業	399,000
	その他企業	798,000
	中小企業	525,000
100 億円以上	その他企業	1,050,000


中小企業の方は、登録公開料キャンペーン中です
詳細はこちら
→<http://www.cfp-japan.jp/regulation/index.html#2-12>

CFPWEBサイト HOME⇒CFP関連規定⇒R-14-05「料金規定」参照

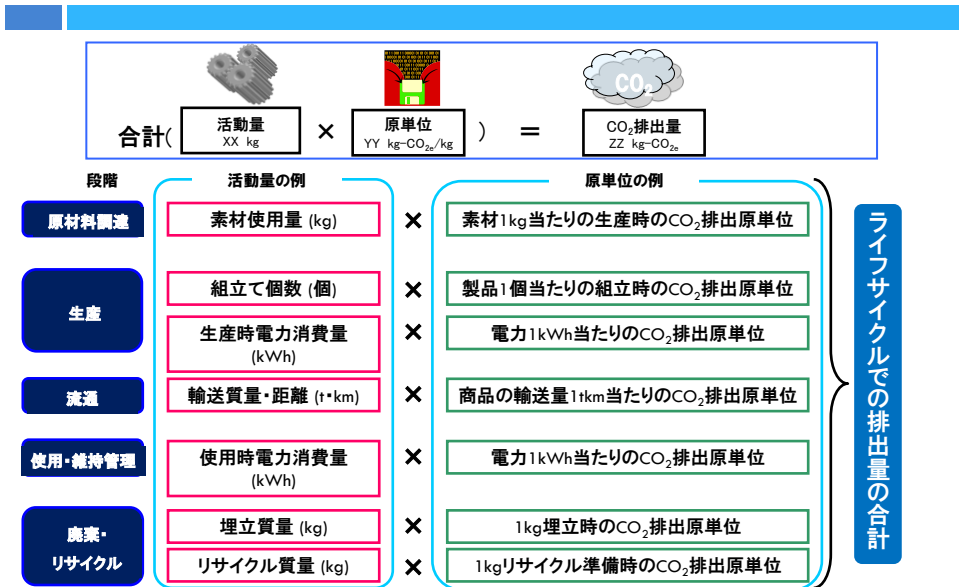
製品と目的を定める



- 何のためにやるのか？
- どの製品で取り組むのが目的に対して効果的か？
- CFPで誰に、何を伝えたいのか？
- マークをとったあと、どう使いたいのか？

マーク取得することだけが目的にならないようにしてください。
 何のために検証と公開の手間、費用をかけるのか、
 何が得られたら成功とするのか、
 取り組む前に、関係者の方々に確認・合意してください。

CFP計算の基本的な考え方



製品にあったCFP-PCRをよむ



製品の大まかな分類ごとに、算定ルールとして「CFP-PCR」が定められています。

- CFP-PCR一覧から該当するものをさがす
- 該当するCFP-PCRがない場合は作成が必要
- 読み方のコツ
 - ・まず、フロー図を見て全体像を掴む
 - ・段階の区切りを確認する
 - ・データ収集項目をチェック
 - ・一次データを収集しなければならない項目は何か
 - ・シナリオを活用する
 - ・語尾に注意

CFP-PCRのダウンロード



トップページから、
⇒CFPプログラムへの参加
⇒認定CFP-PCR一覧



該当のCFP-PCRがあるか検索。

該当するCFP-PCRがない場合は、
事務局にご相談ください。

CFP-PCRの構成

“電子体温計（抵抗体温計）”
Carbon Footprint of Product Category Rule of
“Electronic thermometer (resistance thermometer)”

本文書は、社団法人炭素管理協会の炭素管理するカーボンフットプリントのコミュニケーションプログラム（CFPプログラム）において、「電子体温計（抵抗体温計）」を対象としたCFPの算定・宣言に関する規則、要求事項および指針事項である。CFPの算定・宣言を行うおこなう事業者等は、本文書およびカーボンフットプリント算定・宣言に関する要求事項に基づいて、CFPの算定・宣言を行う。

No.	項目	内容
1	適用範囲	このCFP-PCRは、CFPプログラムにおいて「電子体温計（抵抗体温計）」を対象とするCFP算定およびCFP宣言に関する規則、要求事項および指針事項である。なお、対象製品の関係法令に抵触する内容については、法令等を優先する。
2	対象とする製品種類の定義	<ul style="list-style-type: none"> 電子体温計とは、熱伝導の原理に基づいて感温素子により温度を検出し、最高温度計機能等を有し、人の体温を測定してデジタル表示することのできる製品である。 次の法的規制事項を満たしている電子体温計をこのCFP-PCRの対象とする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 関係法令における医療機器として認定されていること ② 関係法令における医療機器の製造販売承認を取得していること このCFP-PCRの対象とする「電子体温計」とは、次の①～③の用途がある。 <ul style="list-style-type: none"> ① 一般家庭用（既用型） ② 病院用（業務用） ③ 個人用 この場合において、次に次の①～③に示すような機能上および構造上の分類がある。 <ul style="list-style-type: none"> ① 測定方式による分類：手動式および自動式 ② 機能による分類：測定単一体型および測定器と専用器 ③ 内部電源の種類：交換式および非交換式 次のいずれかに該当する製品はこのCFP-PCRの対象外とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・体内測定の検出によって温度を測定する非体外感測体温計 ・内部電源を備えず外部からの交流電源にのみ駆動するもの ・伝導量を測定するもの
2.2	機能	人の体温を測定してデジタル表示する機能
2.3	算定単位（機能単位）	1製品、5年間に及ぶ機能の提供（使用期間は5年間を想定） ただし、内部電源が非交換式の場合、かつ、電子体温計の製品寿命が5年未満の場合は、5年間の代わりに製品寿命を機能単位とする。
2.4	対象とする機能要素	次の要素を含むものとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・本体（非交換式/交換式型）、付属品 ・包装（製品包装および輸送箱内もの）は、提供先の手段にわたるものとする。 ・検査（取扱説明書、計付文書および検閲ケース（ただし、ある場合は）は、提供先の手段にわたるものとし、常時、計付された状態維持されるものとする。

- CFP-PCR本文
- ・適用範囲
 - ・製品の定義
 - ・引用規格およびPCR
 - ・用語の定義
 - ・対象範囲
 - ・共通に適用する事項
 - ・各段階別に適用する項目
(二次データ適用項目)
 - ・宣言(表示)方法

- 附属書A～
(CFP-PCRによって、
様々に用意される)
- ・フロー図
 - ・対象製品例
 - ・輸送シナリオ
 - ・使用シナリオ
 - ・シリーズ製品定義等

※作成された時期によって多少フォームが異なりますが、基本構成は同じです。

フロー図（電子体温計の場合）

※CFP-PCRによって異なります。お使いになるCFP-PCRをご確認ください

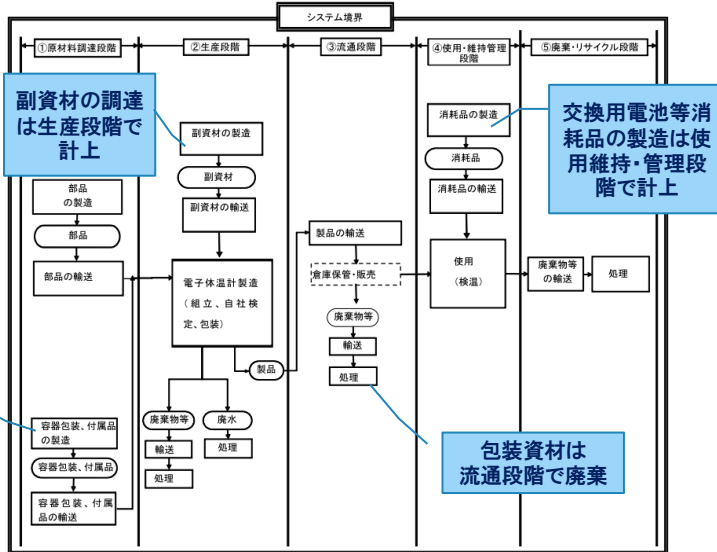
CFP-PCRの本文の
後ろ「附属書」に必ず
ついてます。
製品の一生のうち

・投入・排出される
ものが何で

・どの段階に計上
されるのか

確認してください。

容器包装の調達
は原材料調達階
で計上



一次データとシナリオ



8	生産段階に適用する項目	①電子体温計製造（組立、自社検定、包装）プロセス																											
8-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	次表に示すデータ項目を収集する。																											
8-2	データ収集項目	<table border="1"> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> <tr> <td>「水」</td> <td>一次</td> <td>「水」</td> </tr> <tr> <td>「燃料」</td> <td>一次</td> <td>「燃料」</td> </tr> <tr> <td>「電力」</td> <td>一次</td> <td>電力</td> </tr> <tr> <td>製品生産プロセスへの投入量</td> <td>一次</td> <td>製造と供給および製造単位</td> </tr> <tr> <td>「副資材（組立、自社検定、包装等）に係る調達量や輸送用資材」</td> <td>一次</td> <td>副資材</td> </tr> <tr> <td>製品生産プロセスへの投入量</td> <td>一次</td> <td>製造原単位</td> </tr> <tr> <td>「副資材（組立、自社検定、包装等）に係る製品部や輸送用資材」</td> <td>準1</td> <td>「各輸送手段」</td> </tr> <tr> <td>製品生産サイトへの輸送量（または燃料使用量）</td> <td>準1</td> <td>輸送原単位</td> </tr> </table>	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「水」	一次	「水」	「燃料」	一次	「燃料」	「電力」	一次	電力	製品生産プロセスへの投入量	一次	製造と供給および製造単位	「副資材（組立、自社検定、包装等）に係る調達量や輸送用資材」	一次	副資材	製品生産プロセスへの投入量	一次	製造原単位	「副資材（組立、自社検定、包装等）に係る製品部や輸送用資材」	準1	「各輸送手段」	製品生産サイトへの輸送量（または燃料使用量）	準1	輸送原単位
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																											
「水」	一次	「水」																											
「燃料」	一次	「燃料」																											
「電力」	一次	電力																											
製品生産プロセスへの投入量	一次	製造と供給および製造単位																											
「副資材（組立、自社検定、包装等）に係る調達量や輸送用資材」	一次	副資材																											
製品生産プロセスへの投入量	一次	製造原単位																											
「副資材（組立、自社検定、包装等）に係る製品部や輸送用資材」	準1	「各輸送手段」																											
製品生産サイトへの輸送量（または燃料使用量）	準1	輸送原単位																											
10	使用・維持管理段階に適用する項目	①電子体温計の使用（検閲）プロセス																											
10-1	データ収集範囲に含まれるプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・内部電流が交換式の場合（10-2は5(10-5)に基づき、想定使用期間における消耗品（交換電池）の投入量を計上する） ・内部電流が非交換式の場合（収集するデータは無い） 																											
10-2	データ収集項目	<table border="1"> <tr> <th>活動量の項目名</th> <th>活動量の区分</th> <th>活動量に乗じる原単位の項目名</th> </tr> <tr> <td>「消耗品（交換電池）」</td> <td>シナリオ</td> <td>消耗品</td> </tr> <tr> <td>想定使用期間（年単位）における投入量（個数）</td> <td>シナリオ</td> <td>消耗品</td> </tr> <tr> <td>「消耗品（交換電池）」</td> <td>準1</td> <td>輸送手段</td> </tr> <tr> <td>生産サイトから使用者までの輸送量（または燃料使用量）</td> <td>準1</td> <td>輸送原単位</td> </tr> </table>	活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名	「消耗品（交換電池）」	シナリオ	消耗品	想定使用期間（年単位）における投入量（個数）	シナリオ	消耗品	「消耗品（交換電池）」	準1	輸送手段	生産サイトから使用者までの輸送量（または燃料使用量）	準1	輸送原単位												
活動量の項目名	活動量の区分	活動量に乗じる原単位の項目名																											
「消耗品（交換電池）」	シナリオ	消耗品																											
想定使用期間（年単位）における投入量（個数）	シナリオ	消耗品																											
「消耗品（交換電池）」	準1	輸送手段																											
生産サイトから使用者までの輸送量（または燃料使用量）	準1	輸送原単位																											

CFP-PCRは実際に算定する人たちが作っているため、データ入手が難しい項目には大抵何らかのシナリオが用意されています。

「一次データの収集項目」
素材の投入量や電力使用量など。
生のデータを集める必要があります。
→ 自社でわからない場合は関係者に
依頼して、取得してください。

「シナリオ」
輸送距離や使用方法など、
実測することが困難と思われる項目には、
シナリオが用意されています。
附属書を参照してください。
※シナリオを使うとやや多めに計上されることが
多いので、わかれば実測データを使ってください。

語尾に注意



語尾	対応
~する・すること	する
~してもよい	しなくてもよい 実際は困難と思われる要求や、個別の製品によっては実態に合わなくなってしまうような記載がされている場合、直後や「その他」欄に「~してもよい」という形で緩和条件が書かれていることが多い。
~が望ましい	しなくてもよい が、検証時、しなかった理由が説明できるように。
~しなければならない	する 記載がなければ通常はしないこと、したくないことが書いてあることが多いので注意。

CFP-PCRを把握したうえで、算定の準備をします

申請書を書く前に



必要なデータの整理をして全体像を把握する

- フロー図を描いてみる
- 活動量(重量、使用量など)データを収集・整理する
- データ収集・管理の体制を整える

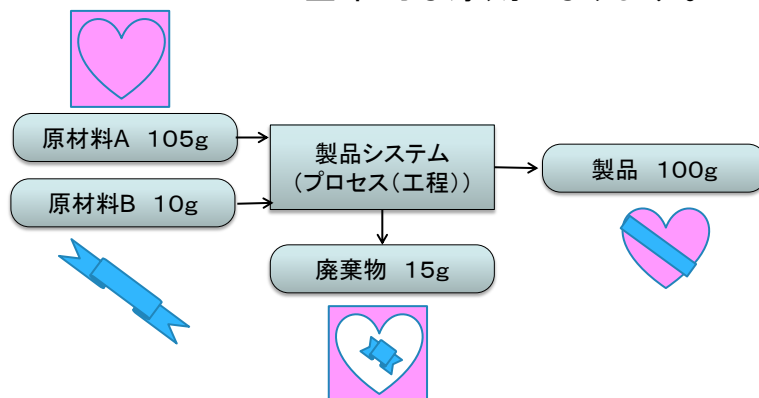
フロー図を描いてみる



- 該当製品の一連のプロセスを図にしてみる
- 抜け・モレがないかCFP-PCRと照合する
- 各段階の区切りをCFP-PCRにあわせる
- 投入・廃棄量もフローに書き込んでみて、マテリアルフローを確認する

マテリアルフローの確認

製品システム(プロセス)に入力された物質の総量は、
産出・排出される総量に等しいと考えます。
CFP/LCAの基本的な原則となります。



活動量データを収集・整理する



- 加工された状態で買うものの素材はどこまで辿る？
⇒CFP-PCRで求めるレベルのデータが入手できているか？
- 原材料の原産地はどこ？
⇒直接調達した商社等からではなく、原産地からの輸送を計上します。
- 機能単位あたりのデータに整理する
⇒生のデータが年間の生産量だった場合、「製品1個あたり」、「100gあたり」「1㎡あたり」などの単位に換算するなどの整理をする必要があります。
- できれば、原単位(とその単位)を先に確認しておく
⇒集めたデータが「●kg」なのに、原単位が「1㎡あたり」だった！という場合、換算するか、データを取り直す必要がでてきます。

データ収集・管理の体制を整える



- 取引先へのヒアリング結果はデータで残す
(定型のヒアリングシートを作るなど)
- 社内活動量データの管理
- 算定に使った資料・データのファイリング

数値の説明責任は事業者にあります。
検証時にエビデンスを逐一確認することは基本的にはしませんが、
検証合格後も、数字の根拠がわかる管理が必要です。

1回のマーク取得だけのためでなく、今後もCO₂の計算、削減の取組を継続できる体制を作ること意識して準備をスタートしてください。

申請書を作成する



申請書類（Excelファイルにまとめて各シートが入っています）

検証申請書	連絡先等を記載します
登録情報	このシートが一般公開されます
表示案	製品等に表示するときのイメージです
フロー図	製品の一生がどんなものか図にします
データ入力と算定結果	計算シートです
データの根拠	どうやって計算したかを説明するシートです
チェックリスト	主に記載の仕方が正しいかをセルフチェックします

このシートがすべて埋まっていることが申請受理の条件となります

申請書のダウンロード



トップページから、
⇒CFPプログラムへの参加
⇒CFP検証について

申請書のExcelシートと、
その記入例が
ここからダウンロードできます。

申請書に活動量を記入する



- 基本は四則計算の繰り返しです
- 算定単位(1個あたりなど)の換算・配分に注意
- 計算の単位(kg、m³、ℓなど)の換算に注意
- 指数表示、桁間違いに注意
 - ⇒ 「g→t」、「m³→kg」、「ℓ→m³」、
「1t=1000000g=1.00E+06g」など。
活動量と原単位の単位が異なる場合は換算が必要。
換算時の間違いがないように、
なるべく申請書を書く前の段階でチェックしておきましょう
- 事前整理したデータからの転記ミスにも注意

原単位をあてはめる



- 素材が何でできているかを確認
 - ⇒ 調達先に問い合わせないとわからない場合もあります。
問い合わせても、企業秘密として教えてもらえない場合もあります。
- ピタッとくるものがないときは「あてはめ」
 - ⇒ 素材、工程が似ているものや、主な構成要素となる原料の
原単位、または、候補となる中で一番大きい原単位などの
あてはめを検討する。
(寄与度が高いと思われるものは、できるだけ辿る努力を。)

原単位データベース



トップページから、
⇒CFPプログラムへの参加
⇒CFP算定用二次データ

原単位はこの2つから
選んで使います。
(利用可能データは
申請により新たに登録する
ことも可能です)

原単位データベースの種類



◆基本データベース

- ・国内
- ・海外

一般的に使われるものを
集めています。
原単位データレビューパネル
に合格したデータです。

◆利用可能データ

- ・国内
- ・海外
- ・3EID
- ・TAIWAN
- ・IDEA (MiLCA)

プログラムが使用を認
めているデータです。

525027	輸送	道路貨物運送	トラック輸送(2トン車:積載率10%)	tkm	1.89E+00	温室効果ガスインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」 源エネルギー:「荷主のための省エネガイドブック 省エネルギーセンター」(2006).p.103 国産・経済産業省「国産・輸送・公衆制度における算定方法-排出係数一覧(2009)」 ※算定方法がインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」	燃料製造→トラック輸送のサービス	
525028	輸送	道路貨物運送	トラック輸送(2トン車:積載率0%)	km	3.77E-01	温室効果ガスインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」 源エネルギー:「荷主のための省エネガイドブック 省エネルギーセンター」(2006).p.103 国産・経済産業省「国産・輸送・公衆制度における算定方法-排出係数一覧(2009)」 ※算定方法がインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」	燃料製造→トラック輸送のサービス	空荷。単位が「km」となっている点に注意
525036	輸送	道路貨物運送	トラック輸送(10トン車:積載率100%)	tkm	1.01E-01	温室効果ガスインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」 源エネルギー:「荷主のための省エネガイドブック 省エネルギーセンター」(2006).p.103 国産・経済産業省「国産・輸送・公衆制度における算定方法-排出係数一覧(2009)」 ※算定方法がインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」	燃料製造→トラック輸送のサービス	
525037	輸送	道路貨物運送	トラック輸送(10トン車:積載率75%)	tkm	1.28E-01	温室効果ガスインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」 源エネルギー:「荷主のための省エネガイドブック 省エネルギーセンター」(2006).p.103 国産・経済産業省「国産・輸送・公衆制度における算定方法-排出係数一覧(2009)」 ※算定方法がインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」	燃料製造→トラック輸送のサービス	
525038	輸送	道路貨物運送	トラック輸送(10トン車:積載率62%)	tkm	1.49E-01	温室効果ガスインベントリデータベース:「日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2009)」 源エネルギー:「荷主のための省エネガイドブック 省エネルギーセンター」(2006).p.103 国産・経済産業省「国産・輸送・公衆制度における算定方法-排出係数一覧(2009)」	燃料製造→トラック輸送のサービス	

優先するデータベースを1つ決めて、
足りない部分をその他のデータベースで補完します。

■ 根拠シートを作成する



- 元の数字にたどり着けるエビデンスが記載されているか
例：生産管理システム●●、資材調達管理データ
■工場生産管理部 出荷伝票
- 元の数字から入力シートに記載した数字がどのように出てきたかがわかるように計算式等が書かれているか
例：年間調達量(●●kg)÷年間生産量(▲▲個)=製品1個あたり調達量(■kg)
調達重量-完成品重量=ロス分重量
- 入力シートと根拠シートの番号が整合するように

「検証員が見てわかり、ロジックが破たんしていないこと」
「後で書類を見て、エビデンスの原本にたどり着けること」が重要です

登録情報シート 追加情報・解釈



- CFP値のメインになっている排出源は何か
- 減らすために自社はどうしようと思っているか
- 減らすために使う人にできることはないか

コミュニケーションにつながる記述を！

CO2の「見える化」を「減らす化」に変えてゆくための
最も重要な部分です。

■ 申請書ができたなら



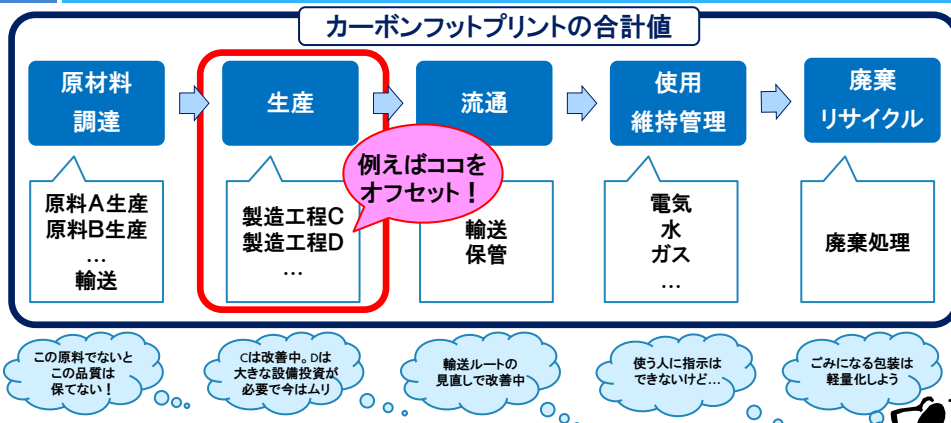
- CFP事務局に、作成した申請書類を送付してください

送付先:

cfp@jema.or.jp



■ CFPからのオフセット検討



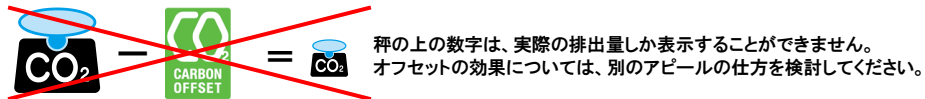
(一例です。自社にあった削減方法を考えてください。)

どこでどのくらい出てしまうのかを把握。自社の努力で削減できる部分は改善したうえで、難しい部分にはオフセットを検討しましょう。



オフセットに活用する場合の留意点

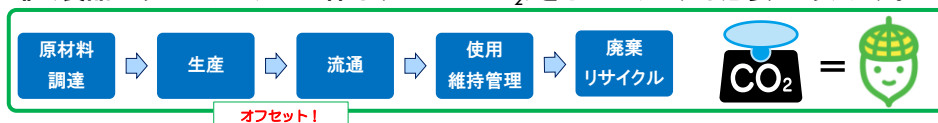
- オフセットを実施しても、CFPの秤の上に記載する数値は減らすことができません。



- CFPの取得に関わらず、オフセットの取組の範囲は任意で設定できます。



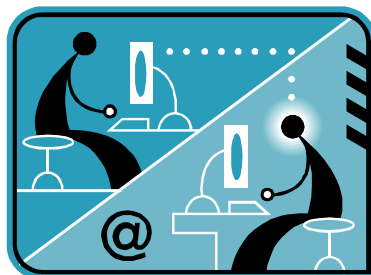
- 「CFPを活用したカーボンオフセット」試行事業のマークを使用するためには、CFP値(製品のライフサイクルに係るすべてのCO₂)をオフセットする必要があります。



※CFPプログラムでは排出量の値の透明性と信頼性を担保しますが、オフセットの値に関する担保は行っていません。オフセットに関しては、取引を行うプロバイダへご確認ください。

CFP検証

- 検証員は書類を確認し、不明点等をメール・電話等で確認します。原則として対面は行いません。
- 不備がないことを確認できたら、検証報告書を作成、事務局に提出します。
- レビューパネル審議後、合否結果が連絡されます。
- 日数の目安は10営業日です。



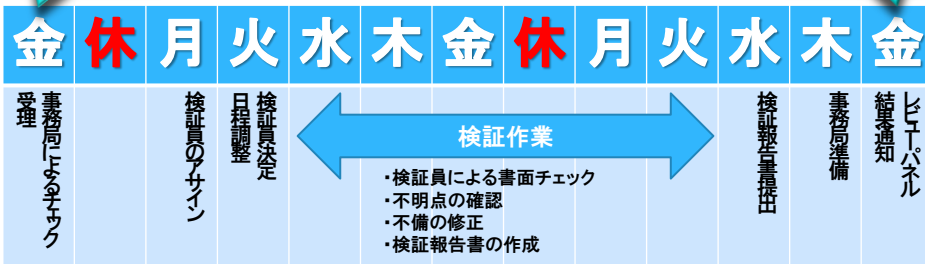
日数の目安



検証員からの報告書が水曜日までに到着したものについて、金曜日のレビューパネルで審議をしています。(原則)

検証申請

結果通知



極力最短でできるよう、事務局・検証員ともに努力していますが、調整が難しい場合もあります。なるべく前倒して申請をお願いします。(特にエコプロダクツ展前(11月~12月上旬)、期末(9月、3月)など)

検証にあたっての注意



- データの出典(エビデンス)自体は検証で確認いたしません。ただし、そのエビデンスへのトレーサビリティは確保してください。
- 申請書に不備がある場合は不合格になります。
- 研修会、個別相談を有効にご利用し、申請書のブラッシュアップをおねがいします。
- 検証時に修正対応は1回のみ許されていますが、修正箇所が多い、欠陥の大きい場合は不合格になる場合があります。

合格後



- **登録公開手続き**
登録公開申請書を事務局にメールで送付
- **マーク使用契約締結**
マーク使用許諾契約書をCFP WEBサイトよりダウンロード、捺印して送付
- **HPの一覧へ公開**
事務局で、CFPWEBサイトの「CFP宣言認定製品一覧」へ登録情報PDFを公開します。



登録公開申請書、マーク使用許諾契約書のダウンロード



トップページから、
⇒CFPプログラムへの参加
⇒登録・公開について

同じページの最下部に
マーク使用許諾契約書が
あります。

登録・公開申請書のExcelシートをダウンロード。

■ 宣言を活用



- 自社のHPへ公開
- プレスリリース
- 製品に表示
- イベントなどでの環境の取組アピール
- 環境教育などでの地域への貢献
- オフセットへの活用
- 環境性能のアピールによる差別化 etc...

マーク取得だけにとどまらず、自社の強みとするための手段としての活用を考えましょう

■ CFP事務局による広報



- Facebookコミュニティ
- メールマガジン
- セミナー・展示会等での
サンプル展示・紹介等



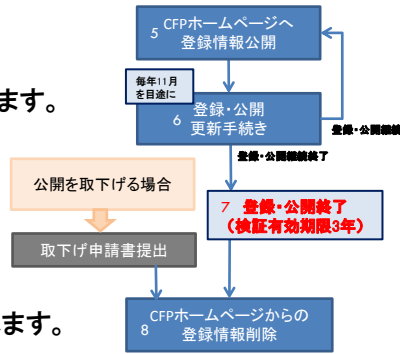
国内、海外、他企業のCFP、環境に関する情報収集、自社のCFP、環境に関する情報発信の場として活用してください

登録公開更新



毎年12月に更新

更新を行わない場合、公開が終了します。
 検証の有効期限も、公開終了に伴って終了します。



登録料は毎年発生

11月頃に、更新の意思確認および翌年の対象製品の売上見込みのお問い合わせをします。
 売上額に応じた登録料が毎年発生します。

登録公開の終了



検証の有効期限は3年間

半年前に、有効期限到来のお知らせをします。
 終了すると、「CFP宣言認定製品一覧」からPDFが削除されます。
 過去にCFPIに取り組んだ実績は残りますが、数値の確認はできません。

公開を継続したい場合は、再検証が必要です。

データを取り直して、再申請をしてください。
 社内に算定できる体制を維持しておきましょう。

再検証の機会を、どの程度実際に削減が進んだかの確認、見直しの機会にしてください。



登録情報PDF部分が見られなくなります。

■ 研修会・個別相談(有料)



■CFP算定研修会

【対象】

- ・CFPのマーク取得を具体的に考えている事業者の方
- ・CFP検証申請書の作成を予定されている事業者の方

■CFPプログラム個別相談

【対象】

- ・CFP検証申請書の作成を始められている方
- ・CFP-PCR原案の作成を始められている方
- ・公開されている原単位以外のデータの利用を希望されている方

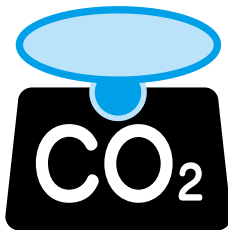
研修会は毎月1回ペースで実施しています。

日程およびお申し込みはこちら⇒ <http://www.cfp-japan.jp/event/>

個別相談の日程はご要望に応じて調整いたします。

具体的な取組に入っている方には、有料研修・相談会をお勧めします。
取組検討段階の方、一般的なご質問は無料で受付していますので、
お気軽にCFP事務局へメール・電話でお問い合わせください。

ご清聴ありがとうございました



【お問い合わせ先】

社団法人産業環境管理協会
カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム事務局
担当：石塚、小粥、星野、伊藤
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-1
三井住友銀行神田駅前ビル
TEL:03-5209-7712 FAX:03-5209-7716
E-Mail:cfp@jemai.or.jp URL:http://www.cfp-japan.jp

カーボンマーケットEXPO2013 ブース出展しています。
是非 展示ホール1 C-06 へお立ち寄りください。